

四谷の

千枚田だより



第 32 号

山の嶺を朝日染めにし千枚田
薄紫にけむる古しえの石垣
海老 浦川哲一
鞍掛の青葉を写す水鏡
豊明市 河合 満

この眺望に、訪れた
方達はきっと潤い、癒
され、満たされ、そし
て満足したお顔になっ
てお帰りいただけるとも

四谷の千枚田

みごろ みどころ

今年も忙しい田んぼの季節がや
つてきました。

みごろ 都市の皆さんがゴールデン
ウィークに「暇」を持って余している
最中、千枚田の農家の担い手のほと
んどがサラリーマンで、この連休中

「代かき」で汗を流し、早い農家で
は田植えが始まります。田んぼに水
が張られ、日々変化するこの十日頃
からが千枚田の見頃です。

みどころ 水の張られた春の千枚田
はふれあい広場など、上から見下ろ
すと「千枚の水鏡」に値するすばら
しい眺めです。



のと自信をもってお勧めします。
効能＝精神的ストレスに効果あり
副作用＝やみつきに注意

学校の田植え

連谷小学校(全校生徒十一名)で
は、五月八日(土)、国際理解教育の
一環として来校するヤニー先生と
一緒に千枚田の学校田で田植えを
します。



子供達は
ヤニー先
生に田植
えをどう
やって教え
るか楽しみます。

名古屋地理学会巡検案内の礼状

小山舜二様 前略 三月二十四
日の訪問では、お忙しいにもかかわらず、とても詳しくわかりやすい説明をいただき、誠にありがとうございます。会長の林上教授(名古屋大学大学院環境学研究科地理

学講座教授)をはじめ、参加した二十五名の会員ともどもとても感謝しております。

四谷の千枚田で、棚田の現状や農家のみなさまが取り組んでおられる棚田の保存の努力について、うかがうことができました。書籍からでは決して得ることができないものを学ぶことができましたことに感謝しています。名古屋地理学会の会員は、大学や高等学校などで地理を担当している者がほとんどですが、今回の学習を今後の研究や教育に生かしていきたいと思っております。

今後ともよろしくお願ひします。

名古屋地理学会 常任委員

愛知県立津島高等学校

教諭 溝口晃之

追伸「千枚田だより」の残部がありましたら、送っていただけませんでしょうか。津島高校の周囲の水田に空き缶などのゴミが目立つことにとっても胸を痛めています。特にこの時期は、田越しが済んだばかりということもあり、よけいに目立ちます。私がかねてより現代の高校生に農家の方々の苦勞を理解させることも教育の一環だと思っています。

三河の山里ツーリズム

主催：三河の山里活性化事業実行委員会（愛知県、岡崎市、豊田市、新城市、設楽町、東栄町、豊根村、中日新聞社）により、四谷の千枚田で「おいしいおこめをつくってみませんか」を開催します。ツアー内容は田植え、田の草取り、稲刈りのすべての農作業に参加できる方に限ります。



田植えは五月十三日（土）、田の草取り七月八日（土）、稲刈り九月九日（土）が計画され、小山舜二（ふるさと水と土指導員・自然体験活動リーダー）の指導により行われます。

幻のお米「ミネアサヒ」

四谷の千枚田では「ミネアサヒ」

が多く作られています。

ミネアサヒは昭和五十五年に豊田市稲武町の愛知県山間農業研究所で開発され、親の系統にはコシヒカリも関係しており、味のよいことで知られております。

稲武で開発されたのに地元より九州の山間部でお米が美味しいことから有名になってしまいました。その噂を聞きミネアサヒの生みの親、三河山間地でも大々的に栽培されるようになりました。もし、九州で評判が起たなかったら幻のお米になってしまったことでしょう。その後、三河山間地域（三百〜六百坪）での食味が再評価され、改めて作付けが増え、ブランド化されました。

ミネアサヒの旨い理由は、夜と昼の温度差（日温較差）がお米の味を作りあげる特徴があることから四谷の千枚田に適した品種と言えることでしょう。

長篠合戦とタニシ

天正三年五月、徳川家康の属城長篠城主奥平貞昌（二十二才）は武田勝頼の率いる一万七千の攻囲を受けて、手兵五百とともに籠城し死闘

した。長篠城の手兵は十日余りにわたる武田軍の猛攻に耐えに耐えたが、食糧庫が焼け落ちるというアクシデントに及び、沢のセリやタニシで飢えをしのぎ戦い続け、援軍の密使鳥居強右衛門がもたらした長篠危急の報に徳川家康八千、織田信長三万の連合軍が馳せ参じ、落城を免れた。貞昌は長篠城守城の功績により家康の養女「亀姫」を娶り幾つかの城主を歴任、出世コースを驀進した。人間、偉くなると過去の苦しみを忘れ、有頂天になるものであるが、貞昌は、大分県の中津城の城主になっても飢えから助けてもらった「タニシ」の恩を忘れることなく、感謝の意から神殿に奉るようになりました。中津市では毎年五月「タニシまつり」が行われています。



奥三河鳳来 長篠城址でも五月五日、「長篠合戦のぼりまつり」が盛大に行われます。その祭りには籠城兵達か飢えを凌いだと伝われるタニシをお供え物として千枚田のタニシが恒例で奉られています。

げなげな嶮

山崩れ供養塔の建つ「かしやげ峠」の左側に「じょうがね」と呼ばれる山がある。この山は「城鐘」とか「城ケ根」と云われておるだけな。

設楽郷土研究家沢田久夫氏は「奥三河の山城と狼煙台」―深いV字谷より成り立つ奥三河にあつて戦国武將はいかにして情報伝達をしたか―の文中、奥三河が武田領となつた時代の進駐軍本営は玖老勢塩平城に置かれ、甲州との情報伝達は「方瀬城峰―四谷城峰―鍛塚城―矢筈峠―丸山・（信州境）・ムネバタ山」と記されている。

そいだもんで「じょうがね」は「城峰」つてゆうじゃあないずらかのん

（舜）

行 平成十八年四月二十日
鞍掛山麓千枚田保存会
発 文 責 小山舜二